



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会
題字 芝田 徳造

握ってくれた手の 力強さに感動して

「障害者スポーツのつどい」リーダー

福田 明美

水泳のつどいに初めて参加させてもらったのは、プールのない8月の100回の準備会からです。

10月から水泳教室ですがその月は欠席。1月の水泳のつどいからの参加です。でも、長い間水着になつたことがなく、最初はプールサイド班と思い、水着の上に着たTシャツと短パン姿で参加してました。短パンが、気がつくといつも短パンも脱ぎ捨て水の中に。きつと皆の楽しそうな姿につられたのでしようね。

1000回の記念大会。水の中での付き合いは、まだ2回目なのですが、目が合う

とニコニコ笑ってくれる参加者。不自由な手を一生懸命振ってくれる参加者ができ、笑顔の嬉しさ、皆の温かさ、水の中で握ってくれた手の力強さには感動して、帰りの車の中では大変幸せな気持ちになり、この気持ちを忘れないようにしなくてはと強く思いました。

一口に1000回といっても、参加者の多い日、少ない日、数々の問題乗り越えての1000回だと思えます。先輩たちのご苦労に頭の下がる思いです。

この水泳のつどいに参加するよう、声をかけてくださった岡村さん、森津さん、そしてこの場に参加

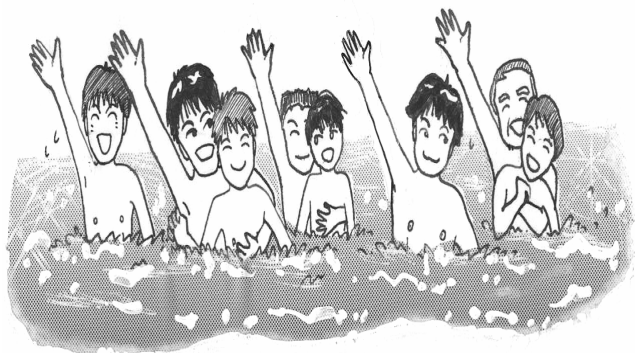
したからこそ知り合いになれたたくさんの人たちに本当に感謝しています。

これからも足を引かず張らないように、皆の温かさを感じながら参加していけたら嬉しいなあと思います。

編集部より

府立体育館の「障害者スポーツのつどい」で中心となるリーダーで活動されている福田さんに原稿を依頼していましたが、「大会出場等で原稿を書く時間がなく、原稿締切に間に合わない」とのこと、水泳のつどい1000リーダー文集「たくさんの笑顔を抱きしめて」平成10年3月発行から福田さんの了解を得て再掲しました。

10年以上たった今も、初めて参加した水泳のつどいで参加者から握られた手の感覚は忘れていないし、それがボランティアを継続している原動力になっています。



「キーワード「共感」」

ボランティアと参加者の関係は、指導する人・指導される人の関係ではなく、ともにスポーツを愛する人間同士として、一緒にスポーツを楽しむ関係が基本ではないでしょうか。

参加者とのような経験をしたり、感動を得たりしたことが、ボランティアを続けるきっかけとなつた人は多くいます。私たちが忘れないで大切にしたいと思います。

行事予定	7月	14(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月の つどいは 8 / 9 第2日曜日
		19(日)	第29回全京都障害者総合スポーツ大会 卓球大会	京都市障害者スポーツセンター	
		26(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	8月	2(日)	乙訓障害者スポーツのつどい	大山崎町体育館	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2009年6月28日に一部更新)					

スポ振ルネサンス 「心でつなぐ活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

昨年の「つどい」6月号のスポ振ルネサンス(3)で、ここ数年「全京都障害者総合スポーツ大会(以下、京都大会という)」に参加され、「全国障害者スポーツ大会(以下、全スポという)」への出場を希望される方(未出場)が少なく、選考会で選手を選抜するのに苦慮しているのが現状の中、振興会のスタッフや関係者の間から「2回目の出場を認めては」という意見が出てきていることに對して、京都障害者スポーツ振興会という会名の示す、障害のある人々のスポーツの裾野を拡げることにこそ、振興会活動の基本のひとつ。この基本を進めるための手段を講じることをも忘れ、短絡的な発想に陥っている現状、つまり、選手を掘り起こす手段を講じないで結論を出す、未転倒であるという話と、支援学校の在校生や卒業生を選手として選ぶ時の本人の意思を無視した選び方などへ苦言を呈しました。

4月6日に「全国障害者スポーツ大会選手選考のあり方についての検討会」が持たれ、結論として、京都における全スポの選手選考に於いては、個人競技部門において引き続き初出場の人からの選考を継続することになりました。継続をする理由として次のことが挙げられます。

- 1、ひとりでも多くの障害のある人々に大会へ出場する機会を保障する。
- 2、スポーツ経験の浅い障害のある人々にも全大会という晴れの舞台を経験してもらうことで、人生観が変わり社会参加につながる。
- 3、ジャパンパラリンピックや日本選手権など高度化を目指す全大会がある中、現状では全スポは、より多くの...を実現する場である。
- 4、スポーツ経験の浅い障害のある人々にスポーツをする喜び、楽しみを知ってもらい、第一段階として全スポに出場するという目標を達成してもらえらるよう。
- 5、昨今の府・市の障害のある人の数から見て、大会どころかスポーツにさえ、まだ関わっていない潜在的選手が多

くいる。(まだ、知らない人がたくさんいる。)

これらを前提に、6月1日の理事会で承認された「全国障害者スポーツ大会参加者活性化対策プロジェクトチーム」を立ち上げました。

チームのスタッフは、時森副会長、森津副理事長、中村専門部長、辻井専門部長、森田専門部長、そして、私の6名で、普及、広報、競技などの担当で構成されています。

そこで、計画を進める第一歩として、各専門部が担当されている取り組みについて、現状報告と分析を直接的に大会の競技等に関わりがあるに拘わらず、専門部長を中心に各専門部でまとめを提出してもらい、振興会活動の基本で最も大事な、「障害のある人々のスポーツの裾野を拡げ、スポーツを通して次に繋げる」という理念と実践の追求のため、まとめていきます。

でき得れば、今年度の京都大会にも、即効、効果が見られる対策が立てられればと考えています。各専門部から提出された調査書の中から状況分析の一部を紹介しますと、

・全国障害者スポーツ大会のことを知らない人が結構いる。

・全国障害者スポーツ大会のことを知っていても、自分に関係ないものと思っ

ている人が結構いる。

・若い障害のある人々は、障害者団体に参加して

いない人が結構いる。

・障害者団体に参加して

いない人には、スポーツ大会等の情報が入りにくい人が結構いる。

・スポーツ大会等の参加経験が乏しく、参加に踏み切れない人が結構いる。

・スポーツ大会等に参加し

たくても、家族など周囲に止められる人が結構

いる。

などが挙がっています。

今後、現状を把握、整理し、振興会活動基本理念の追求と実践や啓発周知範囲を拡大、また、振興会活動の基本理念や活動のあり方等の内部研修などに取り組み、障害のある人々のスポーツ活動の普及・振興に役立てて行きたいと考えています。

全スポや京都大会への参加呼びかけについて、皆さんからの協力を願うものです。

第29回全京都障害者総合スポーツ大会卓球バレーの部

競技結果

日時 平成21年6月21日 (日)

会場 京都府立体育館

一般の部

優勝 京田辺キララ (京田辺市)

準優勝 京田辺ウララ (京田辺)

第三位 やまぶき (宇治市)

施設の部

優勝 洛南A(南区)

準優勝 みぶつくしいず (中京区)

第三位 西陣工房

学校の部

優勝 美女と野獣 (鳴滝)

準優勝 トランザム(東)

第三位 フェストグレーナズ (西)

全京都障害者総合スポーツ大会に参加される皆さんへ

「あなたも全スポ選手に」

今年8月以降に開催される大会は、水泳、陸上、アーチエリー大会です

この大会は翌年の全国障害者スポーツ大会(身障国体)の予選会になっています。国体に出場を希望される方は、申込時その旨記入してください。